

本願寺 御歴代門主シリーズ

その四

本願寺第五代宗主

緯如(しゃくによ)上人(一三五〇～一三九三年)

緯如上人は本願寺第四代善如(ぜんによ)上人のご子息で、南北朝・室町時代の観応(かんおう)元年(一三五〇年)にご誕生されました。

緯如上人が在世の当時の京都は、足利義満による北山文化が花開いた時代でした。

緯如上人は若年期には美濃(岐阜)や越中(富山)などの地方のご教化につくされました。

その後、父善如上人のご往生のあとをうけて、康応(こうおう)元年(一三八九年)、四十歳のとき本願寺の法灯を継承されました。

このころは、同じ浄土真宗の宗派のなか、京都に本山をおいていた仏光寺派が畿内(近畿)から西国地域まで教線を拡張しており、また、同じく近江(滋賀)の木辺派は越前(福井)の三門徒派も安定しており、本願寺派の教線は伸び悩みの時代でありました。

このようななか、緯如上人は越中という新天地に関心を持たれ、法灯を継職された翌年には京都の本山を離れ、越中・井波に瑞泉寺を建立されました。



本願寺第五代宗主 緯如(しゃくによ)上人

瑞泉寺建立にあたって、緯如上人は仏教諸派の方策にない勸進帳をつくり、近国の武士や公家の協力や外護を得ることが出来ました。

このように北陸地域へ本願寺の教線が伸展しはじめたことにより、この後の宗主も北陸地方を重視して、ご教化に尽力されることとなり、やがて第八代蓮如上人によって民衆の間に本願寺北陸門徒の形成をもたらすことになりました。

緯如上人は明徳(めいとく)四年(一三九三年)四月二十四日に四十四歳で浄土に往生されました。宗主としてのご在職は四年とまわめて短かったのですが、北陸地方の門信徒形成の礎となったご功績は大きなものでありました。

※勸進帳 寺院の建立や修繕に必要な費用の寄付や奉納を求める趣意書  
※参考文献 福岡光起著「親鸞聖人と本願寺の歩み」(永田文昌堂)

今後の法要スケジュール

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要 (善教寺本堂)

五月 十六日(木) 午後一時半

\*毎月十六日に本堂において勤めております。

「初参式」 (善教寺本堂)

五月 二十六日(日) 午前九時半

\*仏教婦人会主催行事

「安居会(夏の法要)」 (善教寺本堂)

六月 二十二日(土) 朝席：午前十時

昼席：午後一時半

講師 米田順昭師(甘日市市 最禪寺)

\*送迎マイクロバスを運行します。



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://www.otera.or.jp/> メール [zenkyo@otera.or.jp](mailto:zenkyo@otera.or.jp)